

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第0078号

2023.2月号

令和五年

NPO法人福岡実践人

才無きを憂えず

才の恐ろしさを知れ

森信三先生一語千鈞より

再生



山山又

又

再生の題字（森畑彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

中・高生のための「人間の生き方」

森 信三先生 講述

— 人間学 小門 —

四 あいさつとヘンジの重要性

朝のアイサツとか、「ハイ」という返事などは、幼稚園のころから小学校時代にかけて、ずっと教えられてきたことで、今や中・高生になられた皆さん方にとっては、またかとお思いでしょう。そしてそれもムリからぬこととは思いますが、同時にまたちよつと考えて頂きたいのです。それは「アイサツ」とか「ハイ」という返事が、幼稚園や小学校の低学年より高学年になるほど、だんだん良くならなければかりか、むしろ悪くなるというのは、一体どうしてでしょう。

これでは何の教育ぞやというわけで、ひとつ根本的に考えてみる必要があります。しょう。そして朝のアイサツと「ハイ」という返事の大切さを、今いちどしかと認識して頂かねばと思う次第です。

いつも申すように、わたくしは「人間としての軌道」としては、次の三カ条を挙げているのであります。

一、毎朝、親に対して必ずあいさつをすること。

二、親ごさんからよばれたら、必ず「ハイ」と返事をする。

三、席を立つたらかならずイスを入れ、履物をぬいたら必ず揃える。

以上の三カ条が、人間として実行すべき最基盤的な根本軌道なのであります。したがって、教育の立場から申せば、これ又「躰の三カ条」でもあるわけですが、さて第一に掲げたあいさつですが、このような分りきったことが、イザ実際となると、意外なほどよくは行われていないのであります。ここにも大事な根本問題があるわけです。では皆さんのうちで、毎朝親ごさんに「おはようございませう」とあいさつをしている人が、何人おられるでしょうか。五分の一がおぼつかないの

実践人福岡仁風読書会

第72回 1月7日(土)

場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

ではないでしょうか。その点ヨーロッパの家庭においては、親子・夫婦間における朝・晩のあいさつが、よく守られていると言うことです。ところが日本の家庭では、それが意外に実行されていないというのは、もともと日本人の体質には甘えがあるからだと言えましょう。

しかしここで考えたいのは、人間が朝人に出会ったさい、真先にしなければならぬのは、この朝のあいさつではないでしょうか。しかも、それが自分の親に対しては出来ないというのは、これこそ一種の甘えといつてよいでしょう。それではたして「人間としての軌道」に乗っているといえるでしょうか。

皆さん方のほとんどは高校なり大学なりを卒業して、いづれ就職されるわけでありませう。その際、上司や先輩に対して、自分から先に朝のあいさつもせず、呼ばれても「ハイ」の返事があいまいだったとしたら、一体どういふことになるでしょう。その答えたるや、すでに自明の事と思えます。

ところで第二の「ハイ」という返事ですが、これがまた中・高生のみなさん方にも、意外に実行されていないということは、実に嘆かわしい次第であります。これも「朝のあいさつ」が実行されていないのと同様、親に対しての甘えがあるからだと云う外ないでしょう。このように、親への甘え心やもたれ心があるのは、結局、人間としての心のネジがゆるんでいる証拠と申す外ないでしょう。

それゆえ社会の一員となるための三大絶対基本線たる(一)親ごさんへの朝のあいさつと、(二)親から呼ばれた際のハイという返事とは、家庭生活としての実践条項として、絶対に守るよう改めて決心し直すの要があらましよう。そしてそれによつて皆さん方も、はじめて「人間としての軌道」に乗ることが出来るわけであり

ます。

それから第三の軌道は、前にも申したように、「席を立つたらかならず椅子を入れ」「履物をぬいだらかならず揃える」ということであります。

これは、一見二つのようですが、実は一原理のオモテとウラの両面でありまして、これほど人間のシマリの如何を表わすものはないでしょう。

大人の方でもこの点の守られない人は、十人中六・七人はあるのではないかと思われるほどです。それほどむづかしいわけですが、要するに人間としてのしまりのある人でないと、なかなか守れぬというわけです。ですから皆さん方も、このこと一つによつて、その人がどの程度、人間としてしまりのある人かどうか、ハッキリと分るわけです。

同時にこの「履物をぬいだら必ず揃え」「席を立つたら必ず椅子を入れる」という方は、ひとり人間のしまりのパロメーターであるのみならず、またお金のしまりにも、大いに関係があると言えるようです。したがって、男の諸君は将来大人になつて結婚するような場合には、イスを出しっぱなしにして平気であるような女と結婚したら、人間としてのしまりはもちろん、財布のしまりさええないのですから、大へんな目に出合うわけです。

以上(一)朝のあいさつに始まつて、(二)「ハイ」という返事、それから(三)「履物を揃える」「椅子を入れる」との三カ条につき申ししてきましたが、これからのことは、大抵の人なら知つていながら、いざ実行ということになると、案外できないばかりか、相当の人でも意外に守られていない場合が少なくないといつてよいでしょう。それというのも、子どものころのしつけが不十分なために、人間としてのネジが少々ユルんでいるというわけでしょう。そしてこのネジは前章で申したように、その根本は結局は腰骨にあるのでありまして、人間は腰骨を立て通す人間になつてこそ、直ち実践実行の人となるのであります。そして「こでも」「立腰」が、真に人になる上での最肝要事たることを痛感せしめられるわけです。それ故皆さん方もどうぞ腰骨をたて通す人間になつて、良い事は直ちにそれを実践できるような人間になつて頂くよう願ひしてやみません。

出発する若ものへ

久保田 暁一

君よ行け

勇んで行け

出発の時が来たのだ

君には

すばらしい身体と

未来に羽ばたく

若さがある

君よ行け

勇んで行け

どんなに辛いことが起つても

君には

不屈に立ち上る力と

未来を築く

若さがある

君よ行け

勇んで行け

出発の時が来たのだ

君のもつ若さを大切に

強く 明るく

進んで行くのだ

大きく大きく伸びて

君の花を咲かして行くのだ

時を守り
場を清め
礼を正す
不尽

第一章 人の行かない道を行く

善の循環をつくり出す

小さな実践を積み重ねていく



こうした視点でいまの日本人を見てみますと、昔と比べてずいぶん忍耐力に乏しくなってきたのを感じます。例えば部屋の温度一つをとってみても、冬は二十度、夏は二十八度にもなれば我慢がで

きず、極端な温度設定で常時エアコンのスイッチが入っています。

我慢できる時間の限界もものすごく短くなっており、少し待たされただけで腹を立てます。例えば、新幹線がたった三十分遅れるというだけでももう怒り出すひとがいます。台風や地震などやむを得ない事情で止まってしまった時も、対応に追われて忙しい駅員さんをつかまえ、「どうしてくれるんだ」と掴みかかるような人が何人も出てきます。そのために駅員さんは、正当な職務すら遂行できなくなり、さらに遅れの原因となるのです。

このように、あらゆることに対して許容範囲がせまくなり、自分の尺度からすこしでも外れると我慢できないような、忍耐力の乏しい人、他人への思いやりの欠如した人が増えていることに、私は非常に危機感を覚えます。こうした悪循環を絶って、善の循環に変えていこうとする人たちが出てこない限り、決して日本がよくなることはいないと私は思います。

こうすべきだという理想と、現実に自分がとっている行動との間に、いまどのくらい差があるでしょうか。社会が悪い、国が悪いと口先で繰り返すばかりで、行動が伴わない人が多くなるほど、国家が悪くなり、社会が悪くなり、住み心地が悪くなっていくのです。

あるいは、国が、誰かが何とかしてくれるという他者依存も問題です。一人ひとりが自分の心の中に、自立というものをしっかりと打ち立てていけば、周囲の事情に振り回されて困ることは何一つないと思います。

そういうことに少しでも気づいた人は、日々の生活の中で善の循環をつくり出すことを、ぜひとも今日から実践していただきたいのです。例えば、電車に乗る時に先を争って席を取ろうとするのをやめ、自分は立つても構わないから人に譲る、といった行為。また、赤信号で車を停止する時、前の車との間に道路が見えるくらいの間隔を開けるとか、車線を変更しようとしている車を見たら、自分の前に入れてあげるといふ、一見些細に見えることに気をつけていくだけで、世の中はよくなると確信します。反対に、些細なことに氣遣いをしなくなる度に、社会は乱れていくと思います。

たとえ歩みは遅々としていても、毎日の自分の生き方を振り返りつつ、希望を失わずに努力を積み重ねていくことが大事だと私は思うのです。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 350 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR 九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスマイト



第350回 博多駅早朝清掃
1月8日(日曜日)

30年目のスタート！
55名参加



第 3 5 0 回目、博多駅鐘ヶ江駅長も参加いただき総勢 5 5 名で活動行いました。遠くは東京から、大分から二名、飯塚から四名の同友が参加していただきました。今回嬉しかったことは、①会場設営の準備をしていたところ小学四年生の女の子が真っ先に手伝ってくれたこと。②成人式当日に博多駅早朝清掃に参加して、身も心も清めてから成人式に臨みたいと参加したという、元精華女子高校生で今は精華短大生に感動しました。

この博多駅早朝清掃の場で子供たちの成長を見守っていけることが帆足先生が楽しみの一つとしていたのだろうと思うようになりました。

けさえもん 拝



博多駅長 挨拶



ラジオ体操



木南さん提供の鍵山掃除道テーマソング唱和



2023/01/08



大分、飯塚からの道友参加



いつも早起きの小4花ちゃん

2023/01/08



清掃道具の洗浄～天日干し

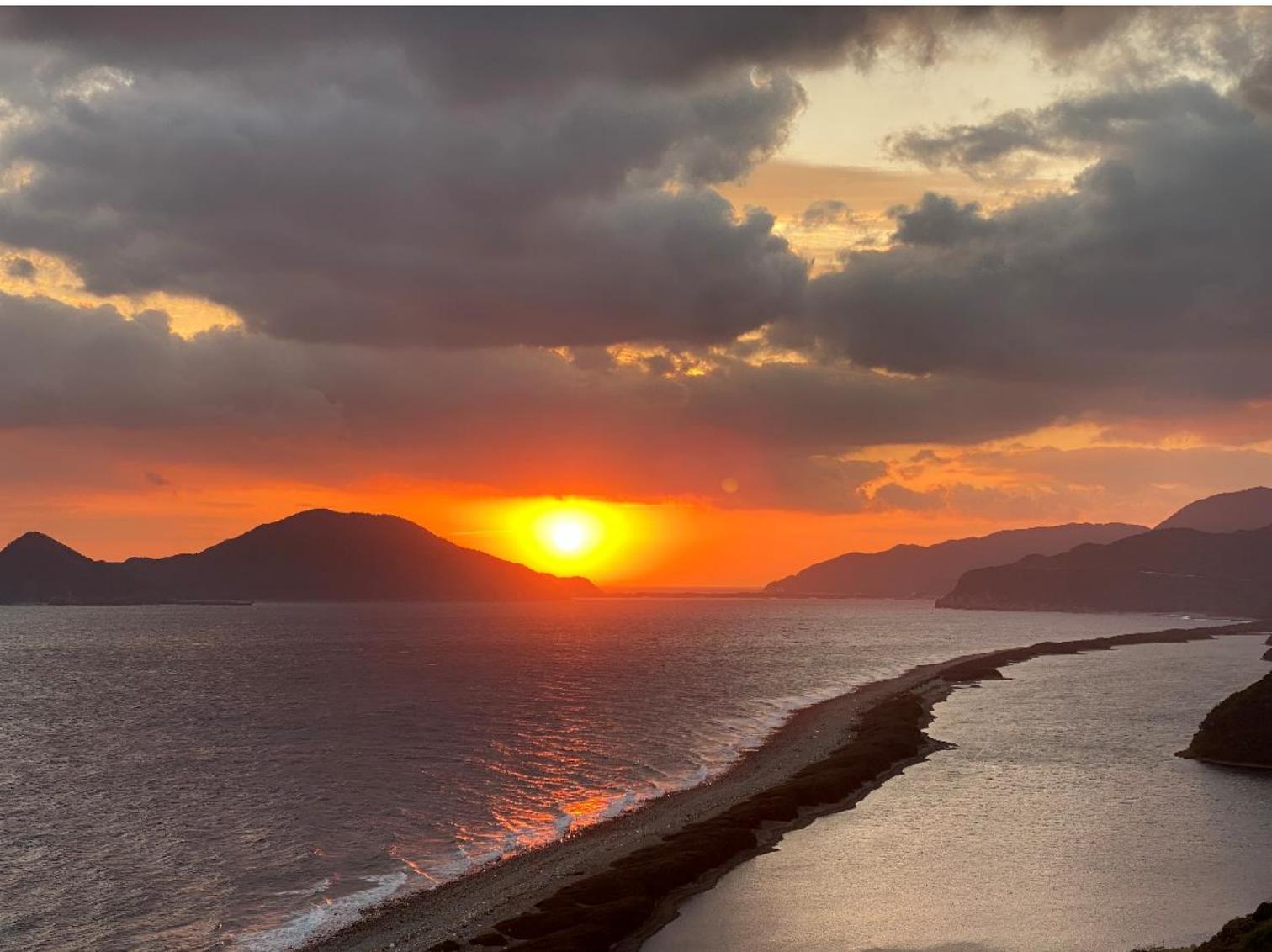
2023/01/08

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

===心を耕し、生を拓く===

ニホ



田之尻展望所からみたトンボロ日の出 R5.1.1

令和5年(2023) 2月号 NO,003

古き良き時代の日本再生をこゝ島から

NPO法人楽農人



ニンニクの成長過程



甑島に上陸した新相棒 310号 (里号)

2022/12/31



甑島の若き生産者が丹精込めて育てた『あきほなみ』をこしき仁風庵に届けてくれました。

楽農人を待ちわびる耕作放棄地

とんぼろ海岸清掃／薩摩川内市 in長目の浜

1月の長目の浜海岸清掃 《こしきかのこゆり倶楽部／トンボロ海掃隊》



正月恒例の甑島での家族写真です→
(こんかいでさいごかなあ！)

2月18日のトンボロ海掃隊

『長目の浜海岸清掃』

支援品：ゴミ袋800枚が届きました。





開間岳／別名「薩摩富士」



黄金千貫の苗つる

2023/01/14



2023/01/14

1月14日、穎娃町の有村農園を訪問しました。二十年来の農友一家です。近年大ニュースとなっているサツマイモの『基腐れ病』の克服に取り組んでいます。今年、薩摩川内市里町で実証栽培を楽農人と共に取り組みます。甌島ではパイナップルも栽培しようと準備も進めています。



パイナップルの鉢栽培

2023/01/14



わが町のシンボル
日本一の大クス



地域ブランド / おおくすイチゴ



1月15日、大楠農産の夏田ファームを訪問しました。
病虫害に苦慮していた十数年前と比較して、
土壌改良資材 **心土ん** を使うようになってほとんど病虫害予防を必要としなくなりました。
という、生産者の声がうれしいです。



2月の活動予定表					3月の活動予定表								
日	5	8	18					5	8	11	19		
曜	日	水	土					日	水	土	日		
行事活動名	長目の 浜海岸清掃	博多駅 早朝清掃 第351回	とんぼろ 海掃隊 発会式	海岸清掃 〜昼食会	とんぼろ 海掃隊 交流会			長目の 浜海岸清掃	博多駅 早朝清掃 第352回	長目の 浜海岸清掃	長目の 浜海岸清掃		
場所	鹿児島 薩摩川内市	博多 駅博多口	長目の 浜海岸	長目の 浜海岸	こしき 仁風庵			鹿児島 薩摩川内市	博多 駅博多口	鹿児島 薩摩川内市	鹿児島 薩摩川内市		
開始時刻	6時 30分	6時 15分	8時	9時 〜 13時	17時 〜 20時			6時 30分	6時 15分	6時 30分	6時 30分		
運営団体	楽農人 トンボロ 海掃隊	福岡 清爽クラブ		楽農人 トンボロ 海掃隊				楽農人 トンボロ 海掃隊	福岡 清爽クラブ	楽農人 トンボロ 海掃隊	楽農人 トンボロ 海掃隊		

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 トンボロ海掃隊

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

